教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 建築学科　　資格： 教授　　氏名： 柳沢　和彦

研究分野	研究内容のキーワード
建築都市空間論、建築都市設計論、建築都市設計	空間図式、居住空間構成法、風景構成法、発達、病理、比較文化、建築プログラミング
学位	最終学歴
博士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 博士後期課程 退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.フィールドワークにおけるスケッチの実践	2013年～現在	フィールドワークにて学生とともにスケッチを作成し、学生に対して作品例として示している。
2.講義における小テストの実施	2011年10月～現在	講義において、担当期間の途中で小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックすることで、継続的な学習を促すとともに途中段階での知識の定着を図る。
3.研究成果の講義へのフィードバック	2009年05月～現在	担当する講義において、最新研究成果を取り入れた授業を展開している。また居住空間構成法や風景構成法といった制作調査研究の手法の体験も取り入れ、学生たちの研究への興味関心を喚起している。
4.授業内容の学科ホームページ上での報告・公開	2009年04月～現在	演習科目やフィールドワーク科目など、可能な範囲で授業内容を学科ホームページ上で報告・公開している。
2 作成した教科書、教材		
1.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2019年度「建築設計総合演習Ａ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2019年04月～05月	建築設計総合演習A課題1「自然と光と陰影を大切にした空間」の課題資料およびそれに伴うダンボールを使用した原寸大スタディモデルの作成
2.武庫川女子大学大学院建築学専攻2年　2014年度「建築設計実務Ⅱ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2014年04月～05月	建築設計実務Ⅱ課題1「可動式組立機構を持つ紙管ゲルの屋外設置」の課題資料の作成および原寸大モデルの屋外設置基本設計、監理、ライトアップ
3.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2013年度「建築設計総合演習Ⅱ」課題2の課題説明書、原寸大モデル等	2013年11月～2014年02月	建築設計総合演習Ⅱ課題2「可動式組立機構を持つ紙管ゲルの制作」の課題資料の作成およびそれに伴う楕円平面を採用した原寸大モデルの材料調達と作成
4.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2012年度「建築設計総合演習Ⅱ」課題2の課題説明書、原寸大モデル等	2012年11月～2013年02月	建築設計総合演習Ⅱ課題2「茶室の制作」の課題資料の作成およびそれに伴う待庵を模した原寸大の茶室の材料調達と作成
5.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2012年度および2013年度　「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2012年04月～05月および2013年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「闇と光と空間」の課題資料およびそれに伴うダンボールを使用した原寸大スタディモデルの作成
6.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2011年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2011年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「光と闇と住宅」の課題資料およびそれに伴うダンボールを使用した原寸大スタディモデルの作成
7.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2010年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2010年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「地球環境に配慮した組立て生産型の独立住宅」の課題資料の作成およびそれに伴う木製ブロックを使用した原寸大モデルの材料調達と作成
8.武庫川女子大学建築学科2年　「建築設計計画Ⅱ」の講義資料	2009年10月～現在	建築設計計画Ⅱにおける「「人間行動と建築空間の調査・分析方法」の講義スライドの作成
9.武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　「建築設計計画論B」の講義資料	2009年09月～現在	建築設計計画論Bにおける居住空間構成法、風景構成法、空間図式と建築的空間等に関する講義スライドと配布資料の作成
10.武庫川女子大学建築学科3年　「建築設計計画Ⅲ」の講義資料	2009年05月～現在	建築設計計画Ⅲにおける「人間の空間図式と発達」の講義スライドの作成
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.千葉工業大学　2008公開講座にて講演	2008年10月18日	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
2.吉林大学工学部機械科学與工程学院工業工程系における講演	2008年09月09日	中国の吉林大学工学部機械科学與工程学院工業工程系において講演「日本の庭園」を実施した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3.国立台北科技大学設計学院工業設計系の大学院デザインワークショップにおける招聘講師	2005年11月4日～11月11日	台湾の国立台北科技大学設計学院工業設計系において研究スペースの設計を題材とする大学院デザインワークショップ（嶋村仁志、彭瑞◆、柳沢和彦）及び講演「風景構成法と日本の空間」（柳沢和彦）を実施した。◆：王へんに文
4 その他		
1.兵庫県立伊丹北高等学校における建築学分野進路ガイダンス	2023年12月14日	名建築の紹介、建築における「確かな技術」と「豊かな感性」、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
2.育英西中学校（奈良県）3年生を対象とした連携授業	2023年8月28日	竹ひごと練消しゴムを使った空間造形演習を行った。
3.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2022 日本側担当（第8回 ICSA in Istanbul）	2022年10月7日～10月28日	トルコのバフチェシヒル大学主催 Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2022 “Lecture Series on Architecture in Turkey” の日本側担当（オンライン）。
4.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2022 FWレクチャー（第13回 ICSA in Japan）	2022年7月2日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2022においてレクチャー「Ine Town, Amanohashidate, Itsukushima Shrine, Hiroshima Peace Memorial Park」を担当した（オンライン）。
5.兵庫県立宝塚北高等学校における大学模擬講義	2021年10月13日	建築学における強・用・美の特に美の重要性、欧米と日本との建築教育や資格制度の違い、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
6.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2021 日本側担当（第7回 ICSA in Istanbul）	2021年10月7日～11月4日	トルコのバフチェシヒル大学主催 Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2021 “Lecture Series on Architecture in Turkey” の日本側担当（オンライン）。
7.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2021 FWレクチャー（第12回 ICSA in Japan）	2021年7月3日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2021においてレクチャー「Ine Town, Amanohashidate, Itsukushima Shrine, Hiroshima Peace Memorial Park」を担当した（オンライン）。
8.武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした出張講義（オンデマンド型）	2021年1月、2022年1月、2023年1月、2024年1月	建築とはどのようなものか、そして日本の建築教育の現状はどのようになっているのか等について解説するとともに、欧米型の建築教育を実践する本学建築学科の特徴や取り組みについて紹介した。
9.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2020 FWレクチャー（第11回 ICSA in Japan）	2020年7月11日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2020においてレクチャー「Funaya of Ine Town, Amanohashidate, Itsukushima Shrine」を担当した（オンライン）。
10.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2020 4年生課題主担当（第11回 ICSA in Japan）	2020年7月3日～07月28日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2020において4年生課題「建築設計演習Ｖ課題3水辺の楽園」を担当した（オンライン）。
11.武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした出張講義	2020年2月12日	建築とはどのようなものか、そして日本の建築教育の現状はどのようになっているのか等について解説するとともに、欧米型の建築教育を実践する本学建築学科の特徴や取り組みについて紹介した。
12.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2019 引率担当（第6回 ICSA in Istanbul）	2019年10月27日～11月09日	トルコのバフチェシヒル大学における武庫川女子大学大学院生対象の保存修復関連海外実習Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2019の引率を担当した。
13.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2019 4年生課題主担当（第10回 ICSA in Japan）	2019年07月02日～07月25日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2019において4年生課題「建築設計演習Ｖ課題3水辺の楽園」を担当した。
14.Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）	2018年07月12日～07月27日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
in Japan 2018 4年生課題主担当（第9回 ICSA in Japan）		るプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2018において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
15. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2017 4年生課題主担当（第8回 ICSA in Japan）	2017年06月23日～07月29日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2017において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
16. 武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした「科学演習実験Ⅱ」	2015年09月29日	講義「建築の空間とデザイン」と校舎見学案内を行った。
17. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2015 4年生課題主担当（第6回 ICSA in Japan）	2015年06月22日～07月25日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2015において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
18. 武庫川女子大学附属高等学校3年生を対象とした「科学演習実験Ⅲ」	2015年05月25日	矩形の平面材の組合せによる塔の制作を行った。
19. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2014 4年生課題主担当（第5回 ICSA in Japan）	2014年06月26日～07月29日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2014において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
20. 武庫川女子大学附属高等学校3年生を対象とした「入学前教育」講義	2014年02月03日および02月07日	建築学科進学予定者を対象として、建築の広がりやその普遍的な魅力の紹介、建築家という仕事の概要、大学における心構えなどの講義を行った。
21. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2013 引率担当（第4回 ICSA in Istanbul）	2013年10月01日～17日	トルコのバフチェシヒル大学における武庫川女子大学大学院生対象の保存修復関連海外実習Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2013の引率を担当した。
22. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2010 引率担当（第1回 ICSA in Istanbul）	2010年09月23日～10月09日	トルコのバフチェシヒル大学における武庫川女子大学大学院生対象の保存修復関連海外実習Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2010の引率を担当した。
23. 雲雀丘学園高等学校（兵庫県）における大学模擬講義	2010年07月10日	まずは紙で折半構造を構築する体験を行い、その後、建築学における強・用・美の特に美の重要性、欧米と日本との建築教育や資格制度の違い、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
24. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2010 3年生課題主担当（第2回 ICSA in Japan）	2010年06月22日～07月27日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2010において3年生課題「建築設計演習Ⅲ課題3大規模な群集を安全快適に誘導する駅舎」を担当した。
25. 奈良県立平城高等学校における大学模擬講義	2009年09月24日	建築学における強・用・美の特に美の重要性、欧米と日本との建築教育や資格制度の違い、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
26. 千葉県立船橋北高等学校における大学模擬講義	2008年11月	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
27. 千葉県立成東高等学校における大学模擬講義	2008年06月	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
28. 千葉県立成東高等学校における大学模擬講義	2006年06月	伊勢神宮をはじめとする日本建築の多くの事例をスライドで紹介し、日本の伝統的空間の諸特徴を心理学的知見や比較文化的知見等とともに解説した。
29. 千葉県立幕張総合高等学校における大学模擬講義	2005年11月	伊勢神宮を例として、日本の伝統的空間の諸特徴を心理学的知見や比較文化的知見等とともに解説した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士（第305560号）	2002年03月08日	
2 特許等		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.公開セミナー「トルコ南東部を震源とする地震から1年　歴史都市アンタキヤの町並み復興を考える」	2024年3月16日	主催：文化庁・武庫川女子大学建築学部　後援：バフチェシヒル大学 文化庁 令和５年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」の一環として、バフチェシヒル大学のムラツ・ドゥンダル教授を日本に招聘し、アンタキヤの被害状況を日本の専門家たちと共有するとともに、どのようにアンタキヤ旧市街の町並みを復興したら良いか意見交換を行った。（岡﨑甚幸、ムラツ・ドゥンダル、柳沢和彦、鳥巣茂樹）
2.トルコ南東部を震源とする地震の被災地調査報告会	2023年8月5日	主催：武庫川女子大学建築学部・教育研究社会連携推進室，後援：兵庫県・神戸市・西宮市 武庫川女子大学中央キャンパスにて、4月に実施したトルコの地震被災地調査の報告会を一般向けに実施し、調査に基づく８つの提言を行った。（岡﨑甚幸、柳沢和彦、鳥巣茂樹、田川浩之、田中幸夫、能勢正義、ムラツ・ドゥンダル）
3.トルコ南東部地震被災地調査の帰国報告会	2023年5月1日	武庫川女子大学甲子園会館西ホールにて、報道機関を対象に、4月に実施したトルコの地震被災地調査の帰国報告会を行った。（岡﨑甚幸、柳沢和彦、鳥巣茂樹、田川浩之、田中幸夫、能勢正義、ムラツ・ドゥンダル）
4.トルコ南東部地震被災地調査　バフチェシヒル大学にてラウンドテーブル	2023年4月17日	バフチェシヒル学にて、現地メディア同席でラウンドテーブルをった。本における建築構造の歴史や取り組み、震災を経験した神市の取り組みについて情報提供するとともに、今回の地震について意交換をった。またバフチェシヒル学に新たに設置予定の防災センターの在りについても議論した。（日本側メンバー：柳沢和彦、鳥巣茂樹、田川浩之、田中幸夫、能勢正義）
5.トルコ南東部地震被災地調査　記者会見	2023年4月11日	2023年2月6日にトルコで大地震が発生した。武庫川女子大学建築学部の教員3名と神戸市職員2名が、トルコ・バフチェシヒル大学の協力のもと、4月12日～20日に被災地調査を実施することとなり、そのため神戸市役所にて記者会見を行った。（岡﨑甚幸、柳沢和彦、鳥巣茂樹、田川浩之、田中幸夫、能勢正義）
6.「フランク・ロイド・ ライト設計　旧山邑邸の世界遺産的価値を考える国際 シンポジウム」特別見学会全体統括	2022年11月20日	武庫川女子大学上甲子園キャンパスの特別見学会の全体統括
7.UNESCO/Japanese Funds-in-Trust Project for Support for Silk Roads World Heritage Sites in Central Asia (Phase II): On-site Training Workshop in Uzbekistan (September 2017) における招聘講師	2017年09月11日～09月21日	ウズベキスタンのタシュケント、サマルカンド、ヒヴァにおいて、現地の建築・考古学関連の専門家を対象として、歴史的建造物および景観の保存・修景・活用に関する技術養成のためのワークショップを実施した。（岡﨑甚幸、柳沢和彦、杉浦徳利、天畠秀秋）
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.生活空間の構成に関わる空間図式の発達的研究－居住空間構成法および風景構成法の考察を通して－	単	2003年3月24日	京都大学博士（工学）	本論文は、生活空間の構成に関して人間にとって普遍的で根源的な原理が存在すると考えられる、子供の内的世界の空間図式の解明を目的としたものである。箱庭療法をヒントに考案された居住空間構成法や風景構成法による作品群の詳細な分析を行うことで、その諸特徴を明らかにしている。具体的には原初的包含性、列状性、正面性、原初的構造性、内外空間区別性、内外空間の構造化の展開という空間図式を明らかにした。（京都大学　第3718号）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1.Design and Fabrication of Modern Ger utilizing Pantadome Systems in Architectural Design Class（査読付）	共	2016年	Proceedings of the IASS Annual Symposium 2016 “Spatial Structures in the 21st Century” 26-30 September, 2016, Tokyo, Japan : International Association for Shell and Spatial Structures (IASS).	本論では、武庫川女子大学大学院建築学専攻の「建築設計総合演習」の課題として行われてきた、パンタドームシステムを採用した原寸大ゲルのデザインと制作の一連の発展過程を考察するとともに、それらを通して、学生たちが空間構造のメカニズム、特にパンタドームシステムの原理とその応用を体得する様子を明らかにした。（Tagawa, H., Tazaki, Y., Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Kawaguchi, M.：紙管ゲルのデザイン及び制作を担当）
2.Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique : Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2016年	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 3rd International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015, Selected Papers (pp.57-64). Istanbul: Bahcesehir University Press.	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らが持つ、家のファサードのイメージの典型的な特徴を、日本の事例との比較を通して明らかにした。これまでに実施した山のイメージに関する研究と同様に、そこには発達的要因よりもむしろ文化的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
3.慢性期統合失調症者を対象とした居住空間構成法の空間構成の類型－風景構成法との比較を通して－（査読付）	共	2014年04月	日本建築学会計画系論文集，第79巻，第698号，pp. 1015-1024	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では慢性期統合失調症者を対象とした居住空間構成法の空間構成の類型を明らかにすることを目的として、風景構成法と比較をしながら49事例の分析を行った。そこでは5類型が抽出され、人間が持つ本質的な空間図式に基づく庇護的空間の諸類型の一可能性等が考察された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
4.Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2013年	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women’s Univ., Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Selected Papers (pp.117-124). Nishinomiya: Mukogawa Women’s University Press.	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの山のイメージの特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例における山のイメージとの比較から、両者は幼稚園児から既に対照的な特徴を示し、従ってそこには発達的要因よりもむしろ文化的・風土的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
5.Types of Rivers with Respect to	共	2012年	Intercultural Understanding,	本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、トルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの「枠」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Frame, Drawn by Turkish Students Based on Landscape Montage Technique（査読付）			vol.2, pp.65-70	に対する川の類型の発達的特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例との比較から、両者の「枠」に対する川の類型の発達的特徴は同じ傾向にあり、従ってそこには文化の枠組みを超えたところの普遍的で根源的な空間図式が関わることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
6.コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型－人物との関係に着目して－（査読付）	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集，第76巻，第670号，pp.2477-2485	本論では、ビザンティン美術の最高傑作の1 つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目しながらそれらの類型を抽出した。具体的には「人物の横にある山」「人物を縁取る山」「人物の横にある山＋人物を縁取る山」という3 種類の山の類型を抽出した。そしてそれらの類型の意味をそれぞれ考察することにより、現実の世界と神の世界とを繋ぐ場所としての山の特徴を明らかにした。（猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
7.Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年	ARCHI-CULTURAL TRANSLATIONS THROUGH THE SILKROAD (pp.55-65). Istanbul: Bahcesehir University Press	本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、慢性期統合失調症者に対して風景構成法を実施した。特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づきながら、彼らの空間構成の特徴を明らかにした。またあわせて日本の伝統的空間との類似性を指摘した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
8.Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church（査読付）	共	2011年	Intercultural Understanding, vol.1, pp.25-30	本論の目的は、ビザンティン美術の最高傑作の1 つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、それらの画面構成上の機能を明らかにすることである。分析の結果、山は1つの絵画を異なる場面に区分し、さらには1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていること、そして山は世界を区分する「枠」として描かれたこと、が明らかとなった。（Inomata, K., Okazaki, S., & Yanagisawa, K.：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
9.Architectural Meaning of a River That Connects the Left and Right Sides of Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年	Intercultural Understanding, vol.1, pp.113-120	本論では慢性期統合失調症者を対象とし、人間にとって普遍的で根源的な原理が存在すると考えられる彼らの空間図式の特徴を解明する研究の一つとして、風景構成法を実施した。そこでは「左右の枠を結ぶ川」が非常に多く出現したことから、その川が描かれた全事例の制作過程や空間構成の特徴を詳しく報告するとともに、その川の建築学的な意味を考察した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
10.風景構成法に基づく広重の風景版画の空間構成に関する研究－「枠」と川との関係に着目して－（査読付）	共	2002年09月	日本建築学会計画系論文集，第559号，pp.179-186	本論は建築学的立場から、風景構成法と広重の風景版画との比較を試みるものである。すなわち幼稚園児から大学生までを対象とした風景構成法で得られた、「枠」に対する川の類型化の発達的な知見に基づきながら、広重の風景版画において「枠」に対する川の類型を抽出し、日本の伝統が深く関わる広重の風景版画の空間構成の特徴を、風景構成法による人間学的な見地から明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
11.風景構成法の「枠」に対する「川」の類型化およびそれに基づく空間構成に関する一考察－幼稚園児から大学生までの作	共	2001年08月	日本建築学会計画系論文集，第546号，pp.297-304	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本論では建築学的立場から、風景構成法における空間構成の発達の変容を明らかにすることを目的として、幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施した。ここでは特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
品を通して－（査読付）				て、空間構成の特徴を明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす：論文全般を担当）
12.幼稚園児の居住空間構成法と描画に見る図式の研究（査読付）	共	1999年05月	日本建築学会計画系論文集，第519号，pp.309-316	本論では、居住空間構成法と描画を用いて幼稚園児に理想の幼稚園を表現してもらった。居住空間構成法の空間構成および描画の表現様式や空間関係を横断的に比較、分析し、それらの特徴を抽出することにより、両者に共通する彼らの空間図式の特徴を、構造的側面と内容的側面の両面から明らかにした。また居住空間構成法の四つの発達段階に対応して、描画作品も四つの発達段階に大別することができた。（柳沢和彦，岡崎甚幸，菊池憲一，難波美絵：論文全般を担当）
13.居住空間構成法と幼稚園児（査読付）	共	1999年04月	日本建築学会計画系論文集，第518号，pp.313-320	本論では、居住空間構成法を用いて幼稚園児に理想の幼稚園の模型を制作してもらった。それらの空間構成を横断的に分析し、特徴的な空間構成を抽出することにより、彼らの内的世界にある空間図式の特徴を、構造的側面と内容的側面の両面から明らかにした。またそれらの作品群を大別することができる四つの発達段階、人形配置の特徴、同一被験者の作品特徴の推移についても考察がなされた。（岡崎甚幸，柳沢和彦，難波美絵：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
14.居住空間構成法による幼稚園児の空間図式の研究（査読付）	共	1998年	日本箱庭療法学会箱庭療法学研究，第11巻第2号，pp.3-15	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では居住空間構成法という技法を紹介するとともに、幼稚園児に理想の幼稚園を制作してもらい、その制作過程を詳述した事例報告を行った。またそれらから明らかになった空間構成ならびにその背後に存在する内的世界の空間図式について考察を行った。（岡崎甚幸，難波美絵，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.竹の創作茶室	共	2023年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（近畿），pp320-321	再生可能な自然素材である竹は、約2~3mmの薄さまで研いでひご状にすることで自在に曲げることができるようになる。ここでは、この竹ひごを用いて、床の間を中心に渦を巻くような形態の『光渦庵』、床柱の竹から放射状に竹ひごが広がり全体が包まれる『宵陰庵』という2 つの異なる形態の茶室を原寸大で制作した。（青木友里，原和奏、岡﨑甚幸、鳥巣茂樹、柳沢和彦：指導教員として設計指導担当）※2023 年度建築デザイン発表会［テーマ部門］顕彰者に選定された。
2.知られぬ宍道湖の面影―小泉八雲の風景を巡る―	共	2023年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（近畿），pp6-7	本計画では、小泉八雲の紀行文で書かれる宍道湖とその周囲の風景についての特徴分析を踏まえ、宍道湖のほとりを対象敷地として、小泉八雲の風景を追体験でき、かつ日本の文化を発信する文化交流の場となるギャラリーとゲストハウスの提案を行った。（清川明純，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
3.翠の界―池をめぐる庭園美術館―	共	2023年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（近畿），pp4-5	本計画では、鹿苑寺庭園と慈照寺庭園の苑路のシークエンス構成分析から明らかとなった共通特徴に基づき、芦屋市奥池を対象敷地として、自然溢れる道を回遊する中で風景の変化を体験することができる、豊かなシークエンスを持つ庭園美術館の提案を行った。（向菜那，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
4.小泉八雲の記述に見る宍道湖とその周囲の風景の特徴―「GLIMPSES OF UNFAMILIAR JAPAN」を対象として―	共	2023年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（近畿），pp669-670	本研究は、小泉八雲の紀行文における宍道湖とその周囲の風景についての記述を読み解くことで、八雲が記述するそれら風景の特徴を明らかにすることを目的とする。分析の結果、宍道湖とその周囲の風景の色彩、見え、形態の時間的・気象的変化、そして霊性を意味する語が出現する特徴が明らかとなった。（清川明純，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として研究指導担当）
5.シークエンスからみた鹿苑寺庭園および慈照寺庭園の苑路の	共	2023年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表	本研究は、鹿苑寺庭園と慈照寺庭園を対象とし、シークエンスからみた両者の苑路の構成の特徴を明らかにすることを目的とする。進行方向を基準として「前」「左」「右」の景観の移り変わりを記述

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
構成比較			梗概集（近畿），pp645-646	した図を作成して分析を行い、「視界の両側遮蔽による苑路の分節」などの特徴を見出した。（向 菜那，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として研究指導担当）
6.ウメダハカーめぐり弔う都市の聖域－	共	2022年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北海道），pp268-269	本計画では、かつて大坂七墓の一つであった梅田墓地の跡地を対象敷地とし、そこから出土した副葬品を展示する空間、納骨堂、そして聖域空間を設けてそれらを巡ることで、都市の日常の中で死と向き合うことができる空間の提案を行った。（本田未来，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
7.島の森の宿り	共	2022年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北海道），pp190-191	本計画では、まず瀬戸内の30島を対象に、山・海・神社・集落の4つの要素の配置パターンを調査分析した。そしてその結果に基づいて、瀬戸内の男木島を敷地として、集落と見立てた長期滞在型の宿泊施設の提案を行った。（北野琴音，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
8.甚兵衛の渡しから始まる川のある暮らし	共	2022年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北海道），pp168-169	本計画では、利用者が減少傾向にある大阪市の甚兵衛渡船場を対象とし、渡船場だけではなく、両岸に図書館を設け、さらには水上バス乗り場も設けることで、より川と密接した暮らしを楽しむことができる提案を行った。（上田千晶，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
9.奈良盆地の山麓に立地する明神大社の立地特性－奈良盆地における明神大社の立地に関する一考察 その2－	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東海），pp853-854	本研究は、奈良盆地にある明神大社23社の中で、山麓にある15社についての立地特性を明らかにするものである。分析の結果、山の辺地域、葛城地域、生駒・二上山地域に立地するものが多いことが見いだされ、またそれらの多くは河川の近くに立地していることが明らかとなった。（大井史江，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
10.囲繞の場－子どもたちを育む自然の家－	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東海），pp208-209	本計画では、人間の成長において囲われる空間が大切であることに着目し、山々に囲まれ、石塀に囲まれ、さらには木造の建物に囲まれた中で、子どもたちが自然に触れ、豊かな宿泊体験をすることができる少年自然の家を提案した。（簗瀬未佑，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
11.緑を巡る庭園都市	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東海），pp192-193	本計画では、コロナ禍で在宅勤務が進み、オフィスビルの在り方が問われる昨今を踏まえ、日本の伝統的な回遊式庭園に着目し、積極的に減築、都市の回遊式庭園化を進めることで、環境の時代に相応しい日本独自の都市空間の提案を行った。（馬場裕実子，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
12.祭りが息衝く歴史会館－灘のけんか祭りの継承－	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東海），pp122-123	本計画では、姫路の松原八幡神社で行われる「灘のけんか祭り」のための歴史会館を設計し、普段は非整形の道路である場所が、お祭り時には神社の直交軸に従う広場になる等、「ハレとケ」で劇的に変化する空間の提案を行った。（番匠真美，柳沢和彦，大井史江，宮野順子：指導教員として設計指導担当）
13.中庭に集う－大学附属の宿泊型研修施設の提案－	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（関東），pp384-385	本計画では、岐阜の金華山の麓において、中庭を持つ宿泊型研修施設を提案した。回廊で囲まれたその中庭は、可動式の全面扉を開放することによって回廊と一体的につながって内外空間が融合し、学生たちの様々な活動の中心的な場所となる。（山口茜，柳沢和彦，大井史江：指導教員として設計指導担当）
14.ナミキモリ	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（関東），pp274-275	本計画では、大阪の御堂筋を敷地とする。御堂筋の特徴であるイチョウ並木の形態に発想を得た構造体が、並木に連続して敷地の奥へと森のように広がりながら人々の居場所になっていく「ナミキモリ」を提案した。（玉井志保，柳沢和彦，大井史江：指導教員として設計指導担当）
15.都市の中の庭－高層建築に展開する立体式回遊庭園－	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（関東），pp270-271	本計画では、北に六甲山、南に神戸港が見える神戸市の中心部の三宮において、現代の特徴である高層建築と歴史ある日本庭園を融合し、1 階から最上階まで階段をまわすことによって、建物全体を回遊できる立体式回遊庭園を提案した。（矢野亜美，柳沢和彦，大井史江：指導教員として設計指導担当）
16.瀬戸内風景ミュージアム	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（関東），pp238-239	本計画では、瀬戸内海の志々島を敷地として、船からの風景、風景画の奥に広がるパノラマの風景、点在する屋根と島々が調和する風景など、瀬戸内海特有の多島美を堪能することができるミュージアムを提案した。（草地優香，柳沢和彦，大井史江：指導教員として設計指導担当）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
17.SAKURA GALLERY	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北陸），pp434-435	本計画では、桜の名所である大阪の扇町公園を敷地として、絵画の中に描かれた仮想の桜と、現実に咲く桜とが展示空間を介して交わり、人々に新鮮な空間体験をもたらす、桜のギャラリーの提案を行った。（堀内嘉乃，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
18.知のモニュメントー都市に建つ図書館ー	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北陸），pp422-423	本計画では、現代において「収集・保存機能を主とする図書館」の役割を改めて問い直し、知識の宝庫としての特徴を、まちに対して積極的に可視化する「知のモニュメント」としての図書館の提案を行った。（細見晴香，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
19.Views of Kobeー山と海の間でー	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北陸），pp336-337	本計画では、メリケンパークを敷地として、市章山、錨山、ポートタワー、海洋博物館など、神戸ならではの山と海の風景を眺め楽しむことができる場所をつくり、新たな名所となる広場空間の提案を行った。（谷口智沙，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
20.八十八蒐集館ー四国霊場を巡るー	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（北陸），pp162-163	本計画では、四国八十八ヶ所霊場を遍路だけではなく、観光としても大衆に広めることを目的として、「四国八十八ヶ所霊場巡り」の伝統に基づきながら、四国八十八ヶ所霊場についての紹介且つ展示を行う蒐集館の提案を行った。（番匠真美，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
21.三尊と宝池の関係からみた阿弥陀浄土図の空間構成の特徴	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東北），pp657-658	本論では、阿弥陀浄土図の空間構成の特徴を、三尊と宝池の関係に着目して明らかにすることを目的としている。研究対象 23 作品を分析したところ、「三尊を含む宝池のある構成」「三尊の前方に宝池のある構成」「三尊の前方から横あるいは後方に至る宝池のある構成」「三尊の前方から楼閣の横あるいは後方に至る宝池のある構成」の4 つの類型が見出され、それぞれの空間構成の特徴を明らかにした。（川崎祐華，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として研究指導担当）
22.奈良・五條の街並みデザインー五条駅前におけるケーススタディー	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東北），pp322-323	本計画では①五條新町・重要伝統的建造物群保存地区の町家群の屋根配置の特徴（例えば入母屋や片入母屋では、十字路やT字路からの見えが意識されていた等）および②五條新町の町家の立面構成要素の特徴に基づき、③奈良県五條市五条駅前を対象とした街並みの提案を行った。（鎌田真実，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
23.コラージュ・構成・空間	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集（東北），pp146-147	本計画では①「綜合的コラージュ」の区分に当てはまる作品を分析して、それらの構成的特徴を抽出するとともに、②オリジナルコラージュを作成し、③その作成したコラージュに基づき、海辺に建つコンベンションセンターの設計を提案した。（中谷可奈子，柳沢和彦，大井史江，森重幸子：指導教員として設計指導担当）
24.Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique : Through Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2015年3月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 3rd International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015（運営側の都合でProceedingsが刊行されず）	（学術論文“Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Comparison with Japanese Students”の梗概である。）本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らが持つ、家のファサードのイメージの典型的な特徴を、日本の事例との比較を通して明らかにした。これまでに実施した山のイメージに関する研究と同様に、そこには発達的要因よりもむしろ文化的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
25.手記を通してみた自閉症児の空間にかかわる行動特性	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1, pp917-918	本研究では、高機能自閉症者自身が著わした手記を分析対象とし、その中から空間とモノに関係し自閉症児に特有と思われる行動を抽出することで、自閉症児の空間にかかわる行動特性を明らかにすることを目的とする。分析の結果、規則性を好む、常同的、モノにこだわる、空間の中でじっとする、歩き回る、空間を怖がる、ファンタジーの中で過ごす、空間に安心するなどの行動特性が抽出され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				た。（松田夏実，柳沢和彦：指導教員として研究指導担当）
26.Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2012年7月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Proceedings, pp105-110.	（学術論文“Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students”の梗概である。）本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの山のイメージの特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例における山のイメージとの比較から、両者は幼稚園児から既に対照的な特徴を示し、従ってそこには発達的要因よりもむしろ文化的・風土的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
27.Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church（査読付）	共	2011年3月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16-18, 2011, Proceedings, pp67-72.	本論では、ビザンティン美術の最高傑作の1 つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、それらの空間的特徴を明らかにした。具体的には「人物の横にある山」「人物を囲う山」「人物を飲み込む山」「人物の横にあり且つ人物を囲う山」「人物の横にあり且つ人物を飲み込む山」という5種類の特徴を抽出し、神の世界に通ずることができる場所としての山の特徴を明らかにした。（Inomata, K., Okazaki, S., & Yanagisawa, K.：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
28.Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Schizophrenic Patients Based on “Landscape Montage Technique”: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年3月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16-18, 2011, Proceedings, pp117-122.	（学術論文“Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space”の梗概である。）本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、慢性期統合失調症者に対して風景構成法を実施した。特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づきながら、彼らの空間構成の特徴を明らかにした。またあわせて日本の伝統的空間との類似性を指摘した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
29.統合失調症者の居住空間構成法	共	2008年10月	日本箱庭療法学会第22回大会発表論文集，pp111-112	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では統合失調症者を対象として居住空間構成法および風景構成法を実施した。その中で本論は、彼らの居住空間構成法の空間構成の特徴を報告するものである。分析の結果、廊下のある構成、囲いによる構成、囲いのない構成という3つに作品群を分類することができた。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
30.統合失調症者の風景構成法における川の類型	共	2008年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）F-2, pp575-576	本研究では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から統合失調症者に対して風景構成法を実施し、彼らの「枠」に対する川の類型の特徴を明らかにすることを目的とする。分析の結果、統合失調症者の風景構成法においては8種類の川の類型が見出され、その中でも特に「左右の枠を結ぶ川」が最も多く出現することが示された。また「枠」と結びつかない「途切れた川」も多く出現することが示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
31.精神病者の風景構成法における川の類型－健常者の風景構成法との比較より－	共	2005年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）E-1, pp1173-1174	本研究では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から精神病者に対して風景構成法を実施し、これまでの健常者の風景構成法との比較から、精神病者の風景構成法における「枠」に対する川の類型の特徴を明らかにすることを目的とする。分析の結果、精神病者では

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				「左右の枠を結ぶ川」が最も多く出現することが判明し、そこには人格水準低下や痴呆症状等が関係していることが示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
32.キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp915-916	本論では、西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを念頭に、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。聖母マリアやキリストが画面の中心を占め背景の多くが黄金地である4世紀～13世紀、シンボル的な山や庭園が現れる13世紀末～15世紀前半、奥行き感のある自然描写が見られ点景のような人物も見られる15世紀後半～19世紀、という三つの時代区分による考察を行った。（猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
33.視覚的特徴から見たソウルの坐向論議－CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究 その2－	共	2004年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp497-498	坐向は穴の位置から見た方位、すなわち穴の後の背にした方位を坐、そして穴の正面を向とする。都市の坐向は、宮殿の方向や道路網、発展方向に影響を及ぼすため、その決定は重要事項であると考えられる。本論ではソウルの坐向論議をCG地形モデルを用いて視覚的な観点から考察した。その結果、朝山から主山の眺めが坐向決定の要因になりうることを明らかにし、囲繞の空間の中だけでなく外からも評価する風水思想の世界観が示された。（鏡千恵子，岡崎甚幸，柳沢和彦，天畠秀秋：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
34.ソウルの囲繞空間の視覚的特徴－CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究　その1－	共	2004年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp495-496	本論では、ソウルの囲繞の空間をCG地形モデルを作成することにより視覚的に示し、風水思想における囲繞の空間の視覚的な特徴を読み解くことを目的とする。分析の結果、周辺の山勢以外の視界に入る遠景の山も、視覚的に囲繞の空間を構成する要素として含まれること、ソウルの主山とされる北岳の形状が、他の山並に比較して際だった特徴を持っていることなどが明らかとなった。（天畠秀秋，岡崎甚幸，柳沢和彦，鏡千恵子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
35.風景構成法における川の類型の男女差－幼稚園児から大学生までの作品を通して－	単	2004年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）E-1，pp993-994	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここでは風景構成法において典型的な発達指標と見なしうる4つの川の類型に着目して、それらの出現率の男女差を検討した。その結果、「上下の枠を結ぶ川」「地平線と下枠を結ぶ川」は男子に多く描かれる傾向があり、「此岸なしの川」「下枠と横枠を結ぶ川」は女子に多く描かれる傾向があることが判明した。
36.社寺参詣曼荼羅における山の類型化－社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1071-1072	社寺参詣曼荼羅とは、16世紀中頃から17世紀中頃にかけての民衆への仏教、神道の信仰の奨励のために描かれた絵図である。本論では社寺参詣曼荼羅を山の描かれ方に着目して分類を行い、これまでに行った川の分類とあわせて、社寺参詣曼荼羅に特有の風景構成を明らかにすることを目的とする。分析の結果、4種類の山の類型を抽出し、遠景の山に縦の川、近景の山に横の川という社寺参詣曼荼羅の2つの特徴的な風景構成を見出した。（上野達哉，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
37.川別に見た山の構成の発達的特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その3－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1069-1070	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論は、山の構成を川の類型別に分析するものである。水平の川では「川にのる山」が多く、斜め、垂直、先細りの川では「上方の山」が多くなる傾向や、山の構成の発達的変容が川の構成の発達的変容と対応していること等が明らかとなった。（猪股圭佑，柳沢和彦，原　祥子，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
38.学年別に見た山の構成の発達的特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その2－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1067-1068	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論では、「枠」と山との関係、川と山との関係に着目して分析を行い、「下枠にのる山」「川にのる山」「上方の山」の3類型を抽出した。また学年が進むにつれて「下枠にのる山」「川にのる山」から「上方の山」に移る発達的な変容の様子が明らかとなった。（原　祥子，柳沢和彦，猪股圭佑，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
39.箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	本研究では、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。それに先立ち本論では、箱庭療法と風景構

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の位置づけ－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その1－			（東海）E-1, pp1065-1066	成法と居住空間構成法という三技法の位置づけに関する考察を行った。箱庭では「世界構成」が、風景構成法では「世界構成」に包含される関係にある「風景構成」が、そして居住空間構成法では「世界構成」や「風景構成」に包含される関係にある「居住空間構成」がなされるということが考察された。（柳沢和彦，猪股圭佑，原祥子，岡崎甚幸：論文全般を担当）
40.広重の風景版画の川による構成分類－幼稚園児から大学生までの風景構成法との比較から－	共	2002年9月	日本箱庭療法学会第16回大会発表論文集，pp90-91	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本論では建築学的立場により、広重の風景版画において川による構成分類を行い、幼稚園児から大学生までの風景構成法との比較からそれらの特徴を明らかにする。分析の結果、広重の風景版画においては、子どもの典型的な特徴である「此岸なしの川」「左右の枠を結ぶ川」で最も高いピークが見られる等の特徴が明らかとなった。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
41.居住空間構成法とピアジェ型実験との比較	共	2002年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1, pp825-826	本論ではピアジェ再考の一研究として、幼稚園児の居住空間構成法とピアジェ型実験とを比較し、両者の対応関係を明らかにすることを目的とする。比較の結果、居住空間構成法の「原初的」「場の発生」「囲いと場の混在」に対応するピアジェ型実験の特徴は、誤反応が多いということ以外は見いだせなかった。それ故ピアジェ型実験が正誤の判断に立脚するものであり、日常生活に基づく子供の多様な空間図式の解明には結びつきにくいことが明らかとなった。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
42.神社を扱った社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究－社寺参詣曼荼羅における川の類型化－	共	2002年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1, pp789-790	社寺参詣曼荼羅とは、16世紀中頃から17世紀中頃にかけての民衆への仏教、神道の信仰の奨励のために描かれた絵図である。本論では、神社を対象とした社寺参詣曼荼羅からの中世の日本人の空間図式の解明を目的とし、川、山という自然要素の描画の分析から、「縦に流れる川」「横に流れる川」「途切れる川」という3種類の川の類型を抽出し、それらの類型を含む絵図にみられる画面構成の特徴を明らかにした。（上野達哉，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
43.多視点の風景画における注視行動－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究 その2 －	共	2002年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1, pp787-788	本論では、異なる構図的特徴をもつ多視点の日本の風景画群を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。それにより各風景画における注視行動の特徴を解明し、注視行動と関連ある多視点の風景画の特徴を明らかにする。分析の結果、多視点の風景画では「直投影で立面的」「俯瞰的」「斜投影で俯瞰的」という3種類の構図をもつ風景画を鑑賞したが、これらの構図よりも絵画要素の配置の仕方や色調が注視行動に大きく影響することが明らかとなった。（呉　怡貞，岡崎甚幸，柳沢和彦，守山敦子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
44.一視点の風景画における注視行動－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究 その1 －	共	2002年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1, pp785-786	本論では、異なる構図的特徴をもつ一視点の日本の風景画群を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。それにより各風景画における注視行動の特徴を解明し、注視行動と関連ある一視点の風景画の特徴を明らかにする。分析の結果、一視点の風景画では「一点に収束する」「一点に収束しない」「一点に収束せず重なりをもつ」という3種類の構図の違いが注視行動に大きく影響することが明らかとなった。（守山敦子，岡崎甚幸，柳沢和彦，呉　怡貞：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
45.Perception and Behavior in Architectural Space	共	2001年10月	第2回デジタルシティ京都会議　デモンストレーション，京都リサーチパーク	第2回デジタルシティ京都会議にて、京都大学岡崎研究室の研究活動を報告するデモンストレーションを行った。そのデモンストレーションの一環として、建築空間における人間行動に深く関わる空間図式についての、居住空間構成法による一連の研究成果を報告した。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室：居住空間構成法を担当）
46.風景構成法から見た広重の風景画－風景構成法による空間図式の研究その2－	共	2001年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）E-1, pp981-982	本論では日本人にとって非常に馴染み深い広重の風景画の空間構成を、風景構成法の視点から分析・解明することを目的とする。ここではその1に引き続き、広重の風景画においても「枠」に対する川の類型を分析する。その結果、広重では10種類の川の類型が抽出された。また風景構成法の結果と比較することで、出現率のピークや両者の相違点などの特徴が考察された。（柳沢和彦，岡崎甚幸，守山敦子：論文全般を担当）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
47.幼稚園児から大学生までの風景構成法の発達的特徴－風景構成法による空間図式の研究その1－	共	2001年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）E-1, pp979-980	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここでは幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの空間図式の解明を目指して、それらの作品の発達的特徴の分析を行う。ここでは特に、最初に描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを明らかにする。分析の結果、15種類の「枠」に対する川の類型を抽出した。（守山敦子，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
48.風景構成法の川による構成分類－幼稚園児・小学生・大学生の作品による空間論的検討－	共	2000年10月	日本箱庭療法学会第14回大会発表論文集，pp58-59	本論では建築学的立場から、幼稚園児、小学生、大学生に風景構成法を実施し、「川」の類型を基準として作品分類を行った。そこでは「此岸なしの川」「枠から離れた水平の川」「左右の枠を結ぶ斜めの川」「垂直に立つ川」「上下の枠を結ぶ斜めの川」「下枠と横枠を結ぶ川」「先細りの川」「山から流れ出す川」など12種類の「川」の類型を見出した。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
49.垂直および斜めの川による構成―小学生の風景構成法についてその2―	共	2000年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）E-1, pp1131-1132	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、小学生の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その際「川」の類型を分析し、そして各「川」毎に作品構成の全体的な特徴を考察する。本論では、発達的特徴を二つにわけた後半部、すなわち垂直の川や様々な斜めの川による構成を報告した。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす：論文全般を担当）
50.羅列および水平の川による構成―小学生の風景構成法についてその1―	共	2000年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）E-1, pp1129-1130	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、小学生の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その際「川」の類型を分析し、そして各「川」毎に作品構成の全体的な特徴を考察する。本論では、発達的特徴を二つにわけた前半部、すなわち羅列および水平の川による構成を報告した。（高橋ありす，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
51.探索歩行における協調行動の分析―仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究その1―	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp147-152	本研究では、マルチユーザ型仮想現実空間を用いた探索歩行実験を通して、歩行者間の情報交換と環境、および歩行行動の関係を解明することを目指す。その中で本論では、仮想迷路空間内において、探索歩行中に協調行動が発生する環境や状況を設定して実験を行った。協調行動を伴う探索歩行時の、歩行者の状態や迷路内の環境と情報交換の発生との関係、および情報交換がその後の探索歩行に与えた影響を分析した。（鈴木利友，伊藤明宏，増田博雄，黒岩将人，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
52.探索歩行時における注視と歩行行動の特性に基づくシミュレーションモデルに関する研究	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp79-84	本研究では、実際の探索歩行時の注視と歩行に基づいたシミュレーションモデルの構築を目的とする。これまで行ってきた実験用迷路における探索歩行時の注視と歩行の分析により、基礎的なモデル化を行い、そのモデル化をもとに注視と歩行のシミュレーションモデルを構築した。そのシミュレーションモデルを実験用迷路に適用して注視行動を再現し、さらにはそのモデルを別迷路にも適用して、その再現性を検討した。（増田博雄，北濱亨，鈴木利友，黒岩将人，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
53.廊下及び階段における制限視野歩行実験による行動特性―アイカメラを用いた通常視野歩行実験との比較を通して―	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp73-78	本研究は、歩行行動における周辺視の果たす役割の解明を目指すものである。具体的には周辺視野を制限した状態で歩行実験を行い、その行動特性を、通常視野下での行動特性と比較しながら明らかにすることで、間接的に周辺視が人間の行動に与える影響を浮かび上がらせる。実験の結果、階段下り歩行時の周辺視が最も重要な機能を果たしていること、身体運動に関する周辺視の役割として身体にバランス感覚を与えることなどが明らかとなった。（黒岩将人，鈴木利友，増田博雄，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
54.居住空間構成法について	共	1999年10月	日本箱庭療法学会第13回大会発表論文集，pp52-53	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では居住空間構成法という技法の特性を改めて問い直しつつ、精神病者、小学生、知的障害児、幼稚園児による居住空間構成法の作品の報告を行った。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
55.分裂病者の居住空間構成法による空間構成過程から規則を抽出するシステム	共	1999年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）A-2, pp453-454	本論文では、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを応用して、分裂病者の居住空間構成法による建築空間の構成過程における潜在的なパターンを客観的に発見するシステムの提案をした。そして壁による構成が主で、かつ、完成作品が直感的に似ていると思われる2つの事例を対象とし、直感的観察から得られる特徴に相当する規則や、あるいは完成作品を一見するだけでは気付かない潜在的な相違点などを抽出することができた。（杉浦徳利，岡崎甚幸，柳沢和彦，穂積輝明：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
56.部分的構成から全体的構成への段階―幼稚園児の風景構成法についてその3―	共	1999年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1, pp791-792	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その1で得られた表現様式や空間関係の特徴に基づきながら、さらには居住空間構成法や描画との比較を通して、彼らの風景構成法を四つの段階にわけた。その中で本論では、「部分的構成」の段階と「全体的構成」の段階という後半二つの段階について報告した。（高橋ありす，岡崎甚幸，柳沢和彦，阿部麻衣子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
57.原初的から構成的萌芽への段階―幼稚園児の風景構成法についてその2―	共	1999年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1, pp789-790	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その1で得られた表現様式や空間関係の特徴に基づきながら、さらには居住空間構成法や描画との比較を通して、彼らの風景構成法を四つの段階にわけた。その中で本論では、「原初的」段階と「構成的萌芽」の段階という前半二つの段階について報告した。（阿部麻衣子，岡崎甚幸，柳沢和彦，高橋ありす：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
58.描画考察に基づく表現様式と空間関係に関する考察―幼稚園児の風景構成法についてその1―	共	1999年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1, pp787-788	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論では、既に発表済みである幼稚園児による描画の研究の知見に基づきながら、風景構成法で見られた要素の表現様式や空間関係（要素と要素との関係）の特徴を明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす，阿部麻衣子：論文全般を担当）
59.居住空間構成法による作品の制作過程から規則性を抽出するシステム	共	1999年6月	日本建築学会近畿支部研究報告集, 第39号計画系, pp217-220	本論では、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを応用して、居住空間構成法による作品の制作過程から規則を抽出するシステムの提案をした。また、人間の直観的観察から得られる作品の特徴を、部分的に抽出することに成功し、さらに直観的観察からでは発見困難であった特徴同士の関係も、帰納論理プログラミングにより抽出された配置規則から読み取ることができた。（杉浦徳利，穂積輝明，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
60.幼稚園児の空間構成と図式の研究―居住空間構成法と幼稚園児その3―	共	1998年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2, pp613-614	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、前二報の結果を踏まえながら、彼らの心の中にあると想定される偏在、一様分布、正面性保持、方向性保持、原初的囲い、列状、家具と壁による場の構成、室や廊下による構成などの潜在的図式を抽出した。（岡崎甚幸，柳沢和彦，高橋ありす：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
61.壁による不完全囲い以降の空間構成―居住空間構成法と幼稚園児その2―	共	1998年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2, pp611-612	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、囲い以降の空間構成として、不完全囲い、不完全囲い群、完全囲い、包括的囲い、完全囲い群、そして廊下や室が壁で明確に構成されてつながりが示される室群統括について報告した。（高橋ありす，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
62.原初的な空間構成から家具と囲い以前の壁による空間構成まで―居住空間構成法	共	1998年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2, pp609-610	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、囲い以前の空間構成として、偏在、原初的囲い、正面性保持、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
と幼稚園児その1―				方向性保持、一様分布、列状、家具による場の構成、出入口的壁、衝立的壁、連接的壁について報告した。（柳沢和彦，高橋ありす，岡崎甚幸：論文全般を担当）
63.図式の発達段階における部屋概念の発生―居住空間構成法と幼児その3―	共	1997年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2, pp397-398	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、部屋概念の発生の段階を考察し、制作過程より、家具先行、壁先行という特徴を報告した。（菊池憲一，難波美絵，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
64.図式の発達段階における室内外空間の区別の発生―居住空間構成法と幼児その2―	共	1997年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2, pp395-396	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、室内外空間の区別の発生の段階を考察し、囲いの発生、完全囲い、庭の完全囲いという特徴を報告した。（柳沢和彦，菊池憲一，難波美絵，岡崎甚幸：論文全般を担当）
65.発達段階における原初的図式―居住空間構成法と幼児その1―	共	1997年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2, pp393-394	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、原初的図式の特徴を考察し、断片的場面、列状配置、道具間関係希薄、象徴的囲いという特徴を報告した。（難波美絵，菊池憲一，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.南海新今宮駅リニューアル工事（第1期工事）に伴う実施設計業務：駅舎の１階内部通路及び外部デザインの提案	共	2020年11月	[所在地]大阪市西成区	プロジェクトの特徴：南海新今宮駅のリニューアル工事に伴い、ガラスを多用して、駅舎の1階内部通路と外部デザインの提案を行った。（岡崎甚幸，杉浦徳利，天畠秀秋，柳沢和彦）
2.京都府新総合資料館（仮称）公募型設計競技	共	2011年6月	[主催者]京都府	計画敷地：京都市左京区下鴨半木町／規模：24,000㎡程度／プロジェクトの特徴：山門、仁王像、懸造、磐座、北山杉、清水焼など京都に固有な風景や素材を引用し、太陽光パネルを意匠の構成要素として積極的に活用した京都府の総合資料館（武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオのメンバーとして参画）
3.バフチェシヒル大学日本文化研究センター，内装基本設計・実施設計・監理・展示計画	共	2010年6月	[所在地]イスタンブール（トルコ）	用途：展示室／規模：バフチェシヒル大学所有のビルの1階部分　延床面積50㎡／プロジェクトの特徴：既存ビルの1室を改修し、和風のデザインを基礎としながらもトルコ産の木材や意匠で仕上げた小規模展示空間。日本の伝統工芸品や大工道具等が展示される。（岡崎甚幸，Murat Dundar，森本順子，柳沢和彦，杉浦徳利，鈴木利友，天畠秀秋）
4.「慰霊碑デザインコンペティション」 ―旧ソ連による戦後強制抑留、引揚に伴う死没者のための慰霊碑建設デザインコンペティション―	共	2009年10月	[主催者]独立行政法人 平和祈念事業特別基金	計画敷地：東京都千代田区三番町２ 千鳥ヶ淵戦没者墓苑内／規模：慰霊碑苑地 200 ㎡以内／プロジェクトの特徴：樹木に囲まれ、「魂が宿る」場所として勾玉形状の式典スペースを持つ慰霊碑（昭和設計・武庫川女子大学建築学科[岡崎甚幸，吉田博宣，大井史江，柳沢和彦，杉浦徳利，森本順子]）
5.武庫川女子大学トルコ文化研究センター，内装基本設計・展示計画	共	2009年7月	[所在地]兵庫県西宮市	用途：展示室／規模：甲子園会館2階部分　延床面積25.0㎡／プロジェクトの特徴：甲子園会館内の2室を改修し、全壁面に展示パネルを配した小規模展示空間。トルコの伝統工芸品や世界遺産の写真等が展示される。（岡崎甚幸，天畠秀秋，柳沢和彦ほか）
6.京都大学桂キャンパス　総合研究棟Ⅳ	共	2004年3月	[所在地]京都市西京区	用途：大学／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：地下1階，地上4階，建築面積3440.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
（建築学専攻），基本設計・監理				87㎡，延床面積8683.56㎡／プロジェクトの特徴：1階レベルでの内外一体型交流展示空間、上階レベルでの教官室研究室居住空間、地階レベルでの構造環境実験室群からなる、京都大学大学院工学研究科建築学専攻の新校舎。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
7.京都大学桂キャンパス　図書館棟，基本設計	共	2003年3月	[所在地]京都市西京区	用途：図書館／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：地上4階，建築面積2423.52㎡，延床面積6220.8㎡／プロジェクトの特徴：眺望の良い傾斜地において、増築が容易に可能で且つ集会機能を持つ大学図書館。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
8.福井県立南越養護学校，基本設計	共	2002年8月	[所在地]福井県武生市	用途：養護学校／構造：木造，鉄筋コンクリート造，一部鉄骨造／規模：地下1階，地上2階，建築面積9366.16㎡，延床面積9243.26㎡／プロジェクトの特徴：幼稚部から高等部までの一貫教育を行い、かつ地域の特別支援教育を実施できるセンターとしての役割を持つ、県産杉を多用した養護学校。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
9.真宗寺客殿及び庫裡，基本設計・実施設計・監理	共	2002年8月	[所在地]福井県鯖江市	用途：客殿及び庫裡／構造：木造，一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造／規模：地上2階，建築面積1546.68㎡，延床面積1497.62㎡／プロジェクトの特徴：積雪地域における象徴的宗教空間を持つ木造の複合用途建築（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
10.京都大学桂キャンパス　Cクラスターマスタープラン，基本計画	共	2002年1月	[所在地]京都市西京区	用途：大学／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：総合研究棟Ⅲ（物理系専攻）：地下2階，地上4階，建築面積9000.00㎡，延床面積27860.00㎡　総合研究棟Ⅳ（建築学専攻）：地下1階，地上4階，建築面積3440.87㎡，延床面積8683.56㎡　総合研究棟Ⅴ（地球系3専攻）：地下1階，地上5階，建築面積7970.00㎡，延床面積25270.00㎡／プロジェクトの特徴：　京都大学大学院工学研究科の物理系専攻、建築学専攻、地球系3専攻（社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻）の新校舎からなるキャンパス。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
11.京阪淀駅高架デザイン計画，基本設計（高架のみ一部監理）	共	2001年8月	[所在地]京都市伏見区	用途：駅舎／構造：駅舎上屋　鉄骨造，高架　鉄筋コンクリート造／プロジェクトの特徴：群集が利用する競馬場に直結し且つ歴史的文脈のある淀城跡に隣接する、プランクシートを用いた曲面屋根を持つ高架駅（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.文化庁 令和５年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」報告書	共	2024年3月	文化庁、武庫川女子大学建築学部	令和5年2月に発生した大地震で崩壊したトルコ・アンタキヤ旧市街を対象として、バフチェシヒル学の協力のもと、現地調査、トルコ人専門家日本招聘および公開セミナーの開催などを通して、どのようにアンタキヤ旧市街の町並みを復興したら良いか、復興案のベースとなる意見書を、建築都市設計および建築構造設計の観点から作成した当該事業の報告書である。（武庫川女子大学建築学部：全体編集責任担当）
2.Intercultural Understanding, volume 13	共	2024年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University.	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第13巻である。ここでは2本の学術論文（査読付）、2022年4月から2023年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
3.Survey Report on the Areas Affected by the Earthquake with Epicenter in Southeastern Turkey	共	2023年8月	School of Architecture, Mukogawa Womens University and Kobe City	「トルコ南東部を震源とする地震の被災地調査 報告書」の英訳版である。（Okazaki, S., Yanagisawa, K., Tosu, S., Tagawa, H., Tanaka, Y., & Nose, M.：全体編集責任担当）
4.トルコ南東部を震源とする地震の被災地	共	2023年5月	武庫川学建築学部 、神戸市	2023年26にトルコ南東部を震央とする地震が発した。バフチェシヒル学の全的なサポートのもと、2023年412～420にアダ

ナ県、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
調査　報告書				カフラマンマラシュ県、ハタイ県で行った被災地調査の報告書である。（岡崎甚幸，柳沢和彦，鳥巣茂樹，田川浩之，田中幸夫，能勢正義：全体編集責任担当）
5. Intercultural Understanding, volume 12	共	2023年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University.	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第12巻である。ここでは1本の学術論文（査読付）、2021年4月から2022年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
6. Intercultural Understanding, volume 11	共	2022年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第11巻である。ここでは4本の学術論文（査読付）、2020年4月から2021年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
7. Intercultural Understanding, volume 10	共	2021年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第10巻である。ここでは巻頭言、2本の学術論文（査読付）、2019年4月から2020年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
8. Intercultural Understanding, volume 9	共	2020年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第9巻である。ここでは巻頭言、3本の学術論文（査読付）、2018年4月から2019年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
9. Intercultural Understanding, volume 8	共	2019年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第8巻である。ここでは巻頭言、3本の学術論文（査読付）、2017年4月から2018年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
10. Intercultural Understanding, volume 7	共	2018年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第7巻である。ここでは巻頭言、4本の学術論文（査読付）、2016年4月から2017年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
11. UNESCO/Japanese Funds-in-Trust Project for Support for Silk Roads World Heritage Sites in Central Asia (Phase II): On-site Training Workshop in Uzbekistan (September 2017), Report	共	2017年12月	UNESCO World Heritage Centre	2017年9月11日～21日にウズベキスタンのタシュケント、サマルカンド、ヒヴァにて実施した、歴史的建造物および景観の保存・修景・活用に関する技術養成のためのワークショップの報告書である。（Okazaki, S., Yanagisawa, K., Sugiura, N., & Tembata, H.：全体編集責任担当）
12. Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 4th International Conference, Mukogawa Women's	共	2017年03月	Mukogawa Women's University Press	2016年7月16日～18日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Roadの選定論文集である。この論文集には、当該国際会議で発表された基調講演論文3本、そして選定された41本の一般投稿論文が収録されている。（iaSU2016 JAPAN Publication Committee編：全体編集責任担当）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Selected Papers				
13. Intercultural Understanding, volume 6	共	2017年01月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第6巻である。ここでは巻頭言、4本の学術論文（査読付）、2015年4月から2016年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
14. Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 4th International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings	共	2016年11月	Mukogawa Women's University Press	2016年7月16日～18日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Roadの学術講演梗概集である。この梗概集には、招待講演1本、そして査読を受けた54本の一般投稿講演の梗概が収録されている。（iaSU2016 JAPAN Publication Committee編：全体編集責任担当）
15. Intercultural Understanding, volume 5	共	2015年09月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第5巻である。ここでは巻頭言、4本の学術論文（査読付）、2014年4月から2015年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
16. Intercultural Understanding, volume 4	共	2014年08月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第4巻である。ここでは巻頭言、5本の学術論文（査読付）、2013年4月から2014年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
17. Intercultural Understanding, volume 3	共	2013年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第3巻である。ここでは巻頭言、6本の学術論文（査読付）、2012年4月から2013年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
18. Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Selected Papers	共	2013年03月	Mukogawa Women's University Press	2012年7月14日～16日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Roadの選定論文集である。この論文集には、当該国際会議で発表された基調講演論文2本、招待講演論文2本、そして選定された35本の一般投稿論文が収録されている。（iaSU2012 JAPAN Publication Committee編：全体編集責任担当）
19. Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's	共	2012年09月	Mukogawa Women's University Press	2012年7月14日～16日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Roadの学術講演梗概集である。この梗概集には、招待講演2本、そして査読を受けた71本の一般投稿講演の梗概が収録されている。（iaSU2012 JAPAN Publication Committee編：全体編集責任担当）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Proceedings				
20.Intercultural Understanding, volume 2	共	2012年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第2巻である。ここでは巻頭言、8本の学術論文（査読付）、2011年4月から2012年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：論文編集担当）
21.Intercultural Understanding, volume 1	共	2011年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women's University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第1巻である。ここでは巻頭言、13本の学術論文（査読付）、2008年12月から2011年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体編集責任担当）
22.空間図式を巡る諸概念に関する覚え書き－子どもや精神障害者を対象とした空間構成調査研究の立場から－	単	2010年02月	20世紀の建築作品における生成論的研究―建築論研究の新領域構築の試み[科学研究費補助金（基盤研究B）課題番号18360297，2006～2008，研究成果報告会，研究代表者　前田忠直]，pp34-44	本論は居住空間構成法や風景構成法を用いた空間構成調査研究の立場から、既往研究に見られる空間図式を巡る諸概念を整理して図上に布置することにより、それら諸概念を統合した新しい空間図式像について論ずるものである。ここでは発達心理学の分野、子どもの描画研究の分野、そして臨床心理学や精神病理学の分野に触れながら諸概念を整理し、構造的側面と内容的側面という二つの側面が空間図式には存在すること等を論じた。
６．研究費の取得状況				
1.トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業	共	2023年12月～2024年3月	文化庁 令和５年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）	令和5年2月に発生した大地震で崩壊したトルコ・アンタキヤ旧市街を対象として、バフチェシヒル学の協力のもと、現地調査、トルコ人専門家日本招聘および公開セミナーの開催などを通して、どのようにアンタキヤ旧市街の町並みを復興したら良いか、復興案のベースとなる意見書を、建築都市設計および建築構造設計の観点から作成した。（武庫川女子大学建築学部：全体業務担当責任者）
2.トルコ地震復旧・復興応援プロジェクト	共	2023年4月	兵庫県	令和5年2月に発生したトルコ・シリア大地震の被災地で、倒壊した建造物の調査や修復のアドバイス、復興計画の検討等を行うため、武庫川女子大学建築学部の教員３人を被災地に派遣した。実施期間：令和5年4月12日（水）～4月20日（木）（柳沢和彦，鳥巣茂樹，田川浩之：派遣団代表者）
3.2nd International Conference on Archi-Cultural Translations Through the Silk Road　の開催に係る助成金	共	2013年03月	公益財団法人中内力コンベンション振興財団	本会議では、ヨーロッパから日本にまで広がるシルクロード地域諸国の、建築を中心とする生活、技術、文化に関連する内容で、ある特定の国や地域の特徴に関わるものや、異文化間の相互作用の特徴に関わる論文を募集した。会場は武庫川女子大学上甲子園キャンパス、会期は2012年7月14日（土）～16日（月）で、そこでは基調講演、招待講演、一般研究発表、大工実演、茶道体験、京都ツアー等が行われ、会議を通じて世界7カ国64本の一般研究が発表された。（2nd International Conference on Archi-Cultural Translations Through the Silk Road Organizing Committee 委員長 岡﨑甚幸：全体とりまとめ担当）
4.精神障害者の空間図式に関する実証的研究―居住空間構成法及び風景構成法を通して―	共	2007年～2008年	平成19年度科学研究費補助金（基盤研究C）課題番号19560650	本研究の目的は、居住空間構成法および風景構成法を用いて精神障害者の空間図式に関する知見を得ることである。今回の考察では、慢性期の統合失調症者56 事例を対象とした。そこでは、居住空間構成法と風景構成法の空間構成の特徴の対応関係が示され、多様な様相を示しながら廊下や囲いや風景などの空間が解体する傾向とともに、特に「包括型」「左右の枠を結ぶ川」という、人間が持つ本質的な空間図式に基づく庇護的空間の可能性が示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：研究代表者）
5.20世紀の建築作品における生成論的研究	共	2006年～2008年	平成18年度科学研究費補助金（基盤	本研究は、建築家の遺した図面、草案、言葉、さらに作品成立を基底づける敷地の特性分析を方法として遂行された。これらの分析を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
一建築論研究の新領域構築の試み			研究B）課題番号18360297	通して、20世紀の諸作品の個々の成立契機が明らかになるだけでなく、これらを包括する普遍的な建築的世界の成立様態や、さらにはこうした世界を具現化する建築家自身の実存のありようなど、作品成立において重層的な生成の構造が見出されることが明らかとなった。このことにより、本研究の独自性を裏付ける「生きられた構成のロゴス(人間的実)」への実証的・存在論的な問いの有効性、可能性が改めて確認された。（前田忠直，朽木順綱，富永譲，柳沢和彦，水上優：研究分担者）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年6月	大阪・関西万博　関西パビリオン展示・運営業務 事業者選定委員
2.2023年7月	大阪・関西万博　関西パビリオン展示設計・運営計画策定支援業務　事業者選定委員
3.2022年4月～2022年8月	大阪・関西万博　関西パビリオン整備事業設計・施工業務公募型プロポーザル　外部有識者委員
4.2021年8月～2022年3月	京都府久御山町　全世代・全員活躍まちづくりセンター整備における設計・運営事業者を特定するための審査委員会委員
5.2021年4月～現在	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　建築プログラミング情報リサーチWG　主査
6.2020年5月～2022年3月	京都府久御山町　全世代・全員活躍まちづくりセンター整備検討委員
7.2020年3月～2020年12月	International Symposium and Architectural Projects Exhibition “AGORA CAUMME PAUMME 2020-Contemporary Architecture & Urbanism in The Mediterranean & The Middle East”, German Univeristy in Cairo, Cairo, Egypt, November 25-29, 2020.の査読委員会　委員
8.2019年01月～2019年06月	5th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mongolia University of Science and Technology, Ulaanbaatar, Mongolia, June 24-26, 2019の組織委員会委員、運営委員会委員、査読委員会委員、Session Chair (Session 5 Digital approaches / Future prospects 担当)
9.2017年06月～2018年11月	International Symposium and Architectural Projects Exhibition “CAUMME PAUMME 2018-Contemporary Architecture & Urbanism in The Mediterranean & The Middle East”, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, November 22-23, 2018の査読委員会　委員
10.2017年4月～2021年03月	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　建築プログラミングの展開WG　主査
11.2015年12月～2017年11月	科学研究費委員会 専門委員（1段　建築史・意匠）
12.2015年11月～2017年03月	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road (iaSU2016 JAPAN), Mukogawa Women’s Univ., Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016の組織委員会委員、運営委員会Chair、出版委員会委員（主担当）、総合司会
13.2015年2月～2020年3月	武庫川女子大学講演会シリーズ「シルクロードの文化と建築」　司会担当
14.2014年12月～2024年3月	武庫川女子大学トルコ文化研究センター研究会　全体運営責任担当
15.2014年11月～現在	武庫川女子大学建築学科・建築学専攻　特別公開講演会　全体運営責任担当
16.2014年11月～2020年3月	武庫川女子大学講演会シリーズ「わが国の近代建築の保存と再生」　司会担当
17.2014年04月～2015年03月	3rd International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015の査読委員会　委員
18.2014年02月～2014年12月	ENVIRONMENT and DESIGN CONGRESS, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, December 11-12, 2014の査読委員会　委員
19.2013年04月～2017年03月	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　公共施設プログラミングWG　主査
20.2011年11月～2013年03月	2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road (iaSU2012 JAPAN), Mukogawa Women’s Univ., Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012の組織委員会委員、運営委員会Chair、出版委員会委員（主担当）、総合司会
21.2011年03月～現在	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要　Intercultural Understanding　査読委員
22.2009年07月～2010年11月	Design シンポジウム2010　若手WG
23.2009年04月～現在	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　委員
24.2009年04月～2013年03月	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　価値創造モデル化WG　主査
25.2006年07月～2014年03月	日本建築学会　設計方法小委員会　委員
26.2004年5月～2019年03月	こども環境学会　学会誌編集委員会校閲部会　委員
27.2003年11月～2004年05月	こども環境学会　学会組織検討委員会　ワーキングスタッフ
28.2003年11月～2004年05月	こども環境学会　学会誌編集準備委員会　ワーキングスタッフ
29.1998年04月～2002年03月	日本建築学会　京都の都市景観特別研究委員会 活動状況報告とりまとめ担当